

文化経済部会・議論の視点例

1. 総論

- 「文化と経済の好循環」の観点から、文化芸術領域自体、そして文化芸術活動が自律的・持続的に発展していけることが重要。このためには、文化芸術表現に対する価値を形成・維持・増進することが不可欠。

【“受け手”と文化芸術表現のあり方】

- ・ この観点から、文化芸術表現が“受け手”に響くことが重要であるが、誰を“受け手”と想定するべきか。①現在・将来の世代、②（グローバル化・デジタル化の進展の下、）世界の目線をどう考えるか。
- ・ “受け手”に響く文化芸術活動・表現はどういったものであるべきか。「伝統」と、「現在・将来」、「グローバル」について、どう両立を図るべきか。

【“担い手”を創り、裾野を拡げる必要性】

- ・ 芸術文化活動の“担い手”を実効的に創ることが必要な状況下で、“担いたい”という意識をどう形成していくべきか。
- ・ “担い手”は、国内のみを視野に入れるべきか。グローバル化の下でどう考えるべきか。

【文化芸術（振興）政策のあり方】

- ・ こうした状況下での文化芸術（振興）政策の取組構造をどう考え

るべきか。また、政策運営・実施上で連携を強めるべき機関やプレイヤーはどういったものがあり得るか。

- ・ 文化芸術振興の観点から実効的な取組はどういったものか。真に振興を図る観点から、振興機関は最適な状況にあるか。個々の文化芸術領域（例：アート、舞台芸術、活字・映像・現代音楽等…）において、構造的な課題は存在しないか。
- ・ 我が国文化芸術の魅力の発信は有効になされているか。ターゲットとする“受け手”を考えた場合に効果的な発信のあり方はどういったものか。
- ・ 文化芸術分野の活動環境は、グローバル化・デジタル化の進展の下で円滑に活動できるよう最適化・効率化されているか。

2. 具体論

- 個別の文化芸術領域や、発信・マーケティング・プロモーション・ブランディングといった文化芸術活動横断的な取組において、（文化芸術活動の自律的・持続的な発展という観点から）構造的・本質的な課題が存在するようであれば、具体論として実効的な解決を図ることが不可欠。

（注：領域の網羅性や整理学を議論するよりも、実質的・具体的な課題解決に重点を置き、課題解決の突破事例作りを重視したい）

【アート（従来の「美術」に閉じず、新たな表現分野を含む）】

- ・ 領域全体の振興、発信を効果的に実現する体制を政策的に実現で

きているか。美術作品やコレクションの価値創造を美術館が十分に実現できる運営となっているか。また、領域を運営する資金が合理的に循環し、自律的・持続的な領域の発展を実現できているか（例：展覧会の運営予算・運営方式）。

- ・ 領域の拡大に政策・施策的に対応できているか（例：マンガ、アニメ、建築（建築家）、デザイン、ファッション等）。

【舞台芸術】

- ・ 伝統的な舞台芸術の魅力が、“受け手”に訴求できているか。次世代の“担い手”は着実に育成できているか。芸術表現の場である劇場は自律的な運営を実現できているか。
- ・ 現代的な舞台芸術分野において、世界に訴求できる作品を生み出せているか。世界的に優れた“担い手”を生み出せているか。芸術表現の場である劇場は、世界的な評価のステータスを得られているか。

【活字・映像・現代音楽等】

- ・ 領域実体を把握できているか、領域毎に構造的課題はあるのか、それらを可視化できているのか。国内市場だけではなく、グローバルな市場を意識して事業や活動が行われているか（効果的にその魅力を伝えられているか）。
- ・ （現代的な領域であるところ）政策としてアーカイブ機能を十分に果たせる運営を行えているか

- ・（著作権制度への目配りが重要な領域であるところ）活動において著作権制度を有利に活用できているか。

【マーケティング・ブランディング・発信・プロモーション】

- ・ グローバル化・デジタル化の進展の中で、我が国文化芸術の発信のあり方は時機を捉えた効果的なものとなっているか。優れた“担い手”のグローバル展開を支える機会の提供を実現できているか。
- ・ マーケティングやプロモーション、国際協力等、グローバルな展開を推進する上で、関係の政府系機関等との有効な提携ができているか。在外大使館や JNTO、国際交流基金、JETRO、JICA 等と連携して、シームレスな支援ができるような政策・施策体系が構築できているか。
- ・ ブランディングの観点から、我が国の優れた文化芸術表現や作品について、世界のハイエンド向けに適した領域のものについては、そういった取組として十分に認知され、展開ができているか。

3. 総括的観点

- 個々の文化芸術領域に関して構造的な課題への対応を進めつつ、政策的には、文化芸術領域全般について、課題の把握・解決を進め、要すれば必要な資金供給をモラルハザードの生じない形でもたらし、自律的・持続的な文化芸術活動を実現できる機能（真の文化芸術振興機能）の形成と、文化庁が有機的に当該機能の育成・強化を推進することが不可欠。
- ・ 現在の文化芸術振興機能について、こういった課題が存在するか。

- ・ 文化芸術振興機能の望ましいあり方はどういったものか。